



いづみ

No.68

街なかの美を守ろう

(題字 國松 明日香)

自作自選 38



《Dash Dance》

澤田 正文

(2 ページに「作者の言葉」)

2016年からスタートした「アニマルダンスシリーズ」。キリンとゾウがタンゴを踊っていたり、ブタさんのプリンシパル、ペンギンのタップダンス、ガゼルのラインダンスなどなど。今回、ウシさんはブレイクダンスを踊っているイメージです。勢いよく突進して回転する瞬間をとらえてみました。

(澤田 正文 ニセコ町で Gallery RAM 経営)

タイトル：《Dash Dance》

制作年：2018年

素材：ステンレスの網

サイズ：H500×W730×D50cm

設置場所：シンガポール

29年ぶりに1万人突破

館長 寺嶋 弘道

平成30年度の本郷新記念札幌彫刻美術館・本館の来館者が10,359人となり、28年ぶりに1万人の大台を回復した。今年の彫刻美術館は昭和56年6月29日の開館から38年目、平成の幕が下りる直前の事務室で、明るい話題の一つとなった。

彫刻美術館の来館者数はオープン直後の3年間は2万人台を記録していたが、多くの新設美術館と同様、開館の熱気が冷めるとともに徐々に減少、10年目の平成2年度の10,202人を最後に1万人を割り込み、平成時代のほとんどを通じて復調することなく推移している。11年目以降の年間来館者数の平均は7,035人である。ちなみに、統計数値を単純に合算した開館以来の総入館者数は、38万人にわずかに届かず379,917人だ。

入場者数は最も多用される指標である。目標として設定されるし、結果としても要求される。だから、多いに越したことはない。その一方、入場者数で施設を評価するのは正しくない、とも言われる。美術館は営利企業ではないのだし、静かなほうが美術鑑賞の場としてふさわしい、社会教育機関なのだから事業の内容や質を重視すべきだ、という意見もある。要は、入場者数がすべてではないということだ。

公の施設として税金が充てられている以上、その使い方の適否や有用性をわかりやすく伝えるデータの一つが入場者数だといえる。さらに今日の少子高齢化、人口減少、低成長の時代に右肩上がりの展望を描くのは難しい状況となっている。したがって、美術館の社会貢献の姿を、さまざまな実績やデータで示していく必要があるだろう。



記憶遺産としての彫刻

西川 吉武

(さっぽろアートボランティア・ネットワーク代表)

私は思い出も自分だけの大きな遺産であると思っている。多くの人たちは年を重ねると記憶が薄れていくと言うが、決してそうではない。はっきりと思い出を残している方たちに多く出会う。不思議なことにその方にとって良かったと思う記憶が鮮明である。もしかしたら辛かった時に一筋の光を見た思いで記憶されているのかもしれない。また、あの忌まわしい3・11は決して忘れることができない方も大勢おられ、災害にあった方々は決して忘れようとも忘れられない記憶となっている。また私達も消してはいけない記憶だと思う。

最近、友の会の皆さんとともに北海道百年記念塔について考えたことがあった。そしてその思いを北海道庁へ提言させていただいた。この種モニュメント（記念碑的）の問題は各地にあるようだ。考えてみると、彫像にまつわる考え方も様々であり、維持できるところもあり、維持できずに朽ちていくばかりのところもある。

今回の百年記念塔については、提言の第一に、記念塔の「完全修復」を掲げたが同時に最小限の有形遺産として生まれ変わり、かつ「制作者の意図」「思い出」も一緒に記憶遺産として残してはどうかと提案した。大切なことは有形だろうが無形であろうが、大切に思う方たちがしっかりと記憶に刻み込めたかということかもしれない。そのための努力をしたかということかもしれない。

彫像のすべてが現状継承できるものではない。かつて学校にあった記念碑はその後どうなっただろうと思出すのも記憶遺産である。彫像設置も景気がいい時代に後先考えずと思われるものもあれば、札幌の二条市場の片隅で魚箱とともに愛されている彫像もいる。美術館等でたくさんの方々に見守られている幸せな彫像もいる。友の会の皆さんに清掃してもらい、よみがえった彫像もいる。土に帰って幸せと思う彫像もいる。彫像には作者の思いも込められている。記憶に残る彫像は物語がしっかりしているし誰かが伝えている。長く親しまれている絵画や音楽など芸術と言われるものは多分語り継ぐだけの意味を持っているのではないか。パブリックアートと呼ばれて街中を彩っている彫像もいる。ぜひ街なかの作品を探して思い出を作ってみてはどうだろうか？ そして出合った物語を多くの方々に語ってほしい。多くの芸術は街づくりでもあり、住む方々にとって思い出でもあり、勇気であり、安らぎでもある。

彫像は歴史を語りその時代を反映する。それでこそ芸術が生きる糧になるであろう。しかし、私たちは彫像たちをどこまで維持できるかを問い、彫像たちをどうするのか考える時に来ているのではないか？ 友の会の彫像のデジタル化はすごいことであり、データ化することだけでなく記憶遺産へと誘う唯一の手段でもあると思う。

「北海道デジタル彫刻美術館」公開の前に

友の会会長 橋本信夫

札幌彫刻美術館友の会のホームページに「札幌街なかの美術館」というページがある。ページを開くと市内各区の名前があり、該当の区名を開くと地図上に野外彫刻の設置場所を示すマークが現れるほか、該当地域に所在する彫刻の作品名、所在地が示される。目的の項目をチェックすると彫刻の写真、作品名、作者、設置場所、設置年、サイズ、材質の基本情報と共に作品の解説記事を読むことが出来る。まさにバーチャル（仮想）美術館であり、2011年の公開以来、友の会ホームページで閲覧回数の多い「ベストセラー」である。

この「札幌街なかの美術館」の全道版が今年秋の公開を目指して準備が進んでいる。「北海道デジタル彫刻美術館」の誕生である。全道179市町村に点在しているざっと3000点の彫刻作品の情報を収めたデータベースとこれに付随するさまざまな写真資料をもとに検索機能を備えた大型彫刻地図コンテンツが出来上がる予定だ。

これら全道的な彫刻データベース作成に欠かせない資料作りの基礎を作ったのは元会員の故仲野三郎さん。夫人同伴で20年の歳月を費やして道内をくまなく調査して回り、約2200点もの彫刻の写真、記録をもとに基本台帳を作り上げた。

その後、2002年にこの手書き資料を会員が分担してパソコンに入力した。さらに会員によるその後の調査結果も加え、現在データベース化された作品数は約3000点に達している。これにより全道各地に分布する彫刻の作者、作品名、素材、設置場所や管理者などの基本情報の検索が可能となっ

た。

こうして2005年、札幌市内約300点の作品を網羅した「札幌街なかの美術館」が生まれた。当初は国土地理院地図をもとにしたが、2017年からはグーグルマップに切り替えられた。

さらに、札幌版を発展させた形の「北海道デジタル彫刻美術館」構想が打ち出され、3000点に余る彫刻を179市町村に区分けする作業やそれぞれの彫刻の固有番号、設置地点の住所、緯度経度を入力するなど、かなり高度なテクニックも必要となった。このためIT技術に優れた若い専門家の応援を求め、このほど、それらの作業をほぼ終え、この秋の公開に目途が立った。

とはいえ、これら各地の個々の彫刻資料には空欄やエラーに加え、作品の保全状態、経年劣化による破損、移設、廃棄などの情報が把握されていない面もあり、今後、各市町村との情報交換を元にした永続的な資料の更新が必要となる。

また、彫刻地図コンテンツは単なる野外彫刻鑑賞の手引きとしてばかりでなく、野外彫刻をその場所固有の文化財としてとらえ、孤立した彫刻1点から彫刻集団としての面へと広く観点を広げることによって地域文化振興に関わる重要な郷土資産としての活用も期待される。

こうして構築された「バーチャル美術館」（仮想美術館）に道内各地の美術館、博物館、郷土館など地域の文化拠点からの情報を加えることによって、行政や産業など幅広分野での活用が期待でき、その具体化が待たれる。

「修復保護」から「予防保全」へ

土谷 あすか

(安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄研究員)



機会があつて昨年10月、イタリアで開かれた文化財保存修復に関する国際学術研究発表会に参加してきました。戦争によって破壊された遺産の保護事例や修復措置の事例、さらに、予防保全など幅広いテーマに沿って30余の事例発表がありました。

イタリアでは1980年代、文化財の遺産修復は化学薬品等の研究、保存技術の発達で著しい進化を遂げました。さらに、修復に用いる製品などの研究が進む半面、それまで文化財に使用した化学薬品の弊害が際立つようになりました。

そこで近年、彫刻作品に付着したコケ類を化学薬品ではなく植物オイルを用いる除草の研究が発表されるなど、環境に優しい素材を使い、いかに文化財を守るかという傾向がみられるようになりました。

そして昨年、さらなるテーマとして「予防保全」がクローズアップされました。予防保全とは、文化財（芸術品）に修復措置が必要となる前に何か施すことはないのかということです。そこで、アルテピアッツァ美唄が日常管理業務として行っていることが正にこの予防保全であるとして呼び声がかかり、研究会へ参加したわけです。

私たちアルテピアッツァ美唄では、芝や木々、建物などの景観の管理に加え、春から秋にかけて毎朝、7畝という広大な敷地に点在している全彫刻作品の清掃を行って

います。また、流路清掃として月2回、広場に敷き詰められた白大理石を洗う作業を行います。1回の清掃で2日間を要し、大理石と大理石の上を流れる水の清潔さを保つように努めています。

こうした現状を発表した後、開かれた場所でありながらも、これだけの美しい景観や作品の状態が保たれていること、場の持つ美しさや、その景観を守る姿勢、何より、この場所を守ろうとしているのが現場スタッフだけでなく、当館に関わって下さる方々や来訪者でもあることに感嘆の声をたくさんいただきました。

多くの屋外彫刻が設置後は放置され、汚れ、傷ついた後になってようやく人の手が入ります。その場合、すでに作品が傷みきってしまったケースがほとんどです。この状態を防ぐには、日々の手入れがとても重要になります。一見、シンプルで当たり前のことのようにですが、屋外彫刻ではあまり着目されて来ませんでした。

イタリアが環境汚染やさらなる作品の劣化に繋がる化学薬品を用いる修復が主流だった時代を経て、修復が必要になる前段階でできる措置として、予防保全に着眼した今、アルテピアッツァ美唄で行っている「基本的な作品を守る方法」が現在の修復界において「実は最前線だった」と言えるのではと感じました。



2019 年度彫刻美術館友の会総会開催

2019 年 4 月 28 日 カナモトホール

新年度活動計画・予算・新役員など原案通り可決

札幌彫刻美術館友の会の 2019 年度総会は 4 月 28 日、新年度から「カナモトホール」に改称した札幌市民ホールで開かれた。天皇代替わりに伴う大型連休入りの影響もあってか出席者は 40 人程度と少なめだった。

総会は橋本会長が「劣化彫刻の修復実現など 30 年にわたる友の会の活動が各方面に認められるようになった。今年も社会的に関心を持たれるような活動を心がけたい」と挨拶、議長に猪股岩生さんを選出して議事に入った。2018 年度活動報告、同決算監査報告をそれぞれ提案通り承認した。決算報告では会計担当の大関元規さんがスライドを使って友の会が抱える財政問題を指摘するなどユニークな報告が目をつけた。

引き続き、2019 年度活動計画では長年の懸案だったインターネットで見る「北海道デジタル彫刻美術館」構想の公開、医療雑誌「ケア」の野外彫刻美術マップ掲載の継続のほか、野外彫刻清掃活動計画、彫刻セミナー開催、美術館支援活動などが原案通り認められた。また、2019 年予算案は収入合計 119 万 8394 円、支出 72 万円、運営準備金 47 万 8394 円として原案通り可決した。さらに、役員改選年にあたり、全員を再任、新たに永喜多宗雄さん、米澤修吾さんの 2 人を新役員に加える提案を承認した。役員は前期 22 人から 24 人となった。

特別講演会「本田明二と北海道の彫刻家たち」

文化芸術交流センター 吉崎元章氏が講演

総会に引き続き開かれた講演会では前芸術の森美術館学芸員の吉崎元章氏が講演。生誕 100 年を迎えた彫刻家・本田明二について作品の解説と共に本田の芸術について語った。

その中で本田は北海道に根を下ろして彫刻を生業とする最初の彫刻家であり、北方の厳しい風土の中から精神性を高めた作風を生み出した芸術家であると述べた。

2019 年度友の会役員

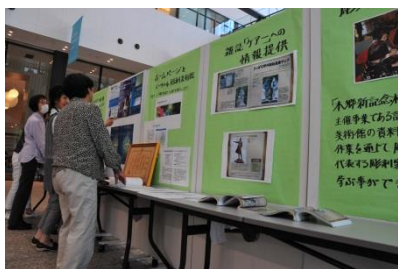
(任期 2019 - 2021 年)

顧問	國松明日香
	原子 修
会長	橋本 信夫
副会長	大内 和
	高橋 大作
幹事・事務局担当	
	奥井 登代
幹事	長峯 慰子
々	松原 安男
々	猪股 岩生
々	高橋 淑子
々	佐藤美保子
々	常田 益代
々	細川 房子
々	岩崎恵美子
々	斉藤ミサヲ
々	船本のりえ
々	大関 元規
々	井尻 哲男
々	太田 雅人
々	押野記代子
々	永喜多宗雄 (新)
々	米澤 修吾 (新)
監査	関堂 安司
々	園部亜佐子

V-net ボランティアパネル展

友の会活動全容を PR

札幌市内のボランティア団体で組織している「さっぽろアートボランティア・ネットワーク



（V-net）」が主催した「アートボランティア・ウィーク」

（5月19—25日）に友の会が参加、初日の19日、会の活動の全容を豊富な展示とDVD画像などで市民らに紹介した。

パネル展は札幌市民交流プラザ（札幌市中央区北1西1）の1階 SCARTS コートで開かれた。会場には高さ1.8m、幅90cmのパネル12枚を使って、「札幌彫刻美術館友の会とは」「野外彫刻の清掃活動」「デジタル彫刻美術館構想」など活動状況を手書きのポスターなどで展示したほか、会報「いずみ」の既刊号の実物、医療雑誌「ケア」に連載中の「さっぽろ野外



彫刻美術マップ」などもパネル

前の机に並べた。さらに、友の会が制作した「彫刻のできるまで」「札幌軟石を彫る」「古いコンクリート彫刻を守ろう」などのDVDを会場のモニターに流して来場者にアピールした。

友の会はこの日、午前11時から午後7時までの展示で、会場を訪れた人の中には興味深そうに展示を見る人もいて、立ち会った会員が丁寧に説明した。

友の会のリーフレット制作
活動のすべてをひと目で

友の会の成り立ちから活動のすべてがひと目でわかるリーフレットがこのほど出来上がった。5月のボランティアパネル展で初お目見えして来場者に配られ



たのを手始めに今後機会あるごとに配布して会の強力なPR武器になる。

リーフレットはA4版のサイズで三つ折り。表紙にあたる部分には会のシンボルでもある「泉の像」の写真をあしらい、会の目標、モットーを掲げた。

中面には野外彫刻の清掃、調査・保全活動、本郷新彫刻美術館との協力支援活動など写真を添えて紹介している。

リーフレット制作のきっかけは今春、一部の会員から「会の活動がひと目でわかるものがあれば」との一言がヒントで誕生した。

札幌市文化部と意見交換

野外彫刻の安全策要望

札幌市内の野外彫刻などの管理をする札幌市市民文化局文化部との意見交換会が5月16日に行われ、友の会から大型野外彫刻の安全対策の強化を強く要望した。

交換会では会側から当面の活動計画のほか、特に大通公園の《ケプロン之像》《黒田清隆之像》など大型彫刻の安全策について破損状態の調査などを強く要望した。また、経年劣化が目立つ中島公園の《笛を吹く少女》ほかコンクリート彫刻の倒壊、修復などの方策に万全を期すよう訴えた。

会員優待制度の利用を

会員証の提示で

彫刻美術館 無料

（友の会が後刻支払）

芸森野外彫刻美術館

通常料金 700円が630円

事務局日誌 ▼2019年3月28日＝雑誌「ケア」編集会議(エルプラザ)
 ▼30日＝彫刻美術館訪問(橋本会長ほか)寺嶋館長、山田学芸員と支援体制など協議 ▼4月11日＝4月定例役員会(エルプラザ)2019年度総会準備、バスツアー計画など協議 ▼17日＝彫刻清掃(羊ヶ丘展望台)観光客来場前の早朝実施 ▼28日＝2019年度総会(カナモトホール)終了後講演会 ▼5月12日＝大通公園「泉の像」など清掃 ▼16日＝市文化局訪問(市役所)野外彫刻調査の申し入れ ▼19日＝アートボランティアウイーク団体展示参加(市民交流プラザ)パネル展示

編集後記 ▼「友の会ニュース」でも触れたが、5月19日、札幌市民交流プラザで「アートボランティア・ウイーク」(Vネット主催)の日替わり展示に友の会も参加、日ごろの活動ぶりをアピールした ▼大きな模造紙に会の目的や彫刻清掃の様子を写した写真を張り付けるなど徐々に学校祭の準備に奔走した昔を思い出した。残念ながら来場者は少なかったが、通りかかる市民にいささかでも会の存在を知ってもらえるいい機会だったのでは。(大内)

札幌彫刻美術館友の会
 会報「いずみ」 No.68
 2019年7月1日発行
 発行人 橋本 信夫
 編集者 大内 和
 (札幌市清田区清田5-4-6-30
 011-884-6025)

会報「いずみ」68号 目次

自作自選38 《 Dash Dance 》	表紙
作者の言葉	2
宮の森の四季38「29年ぶりに1万人突破」	寺嶋弘道 2
風見鶏「記憶遺産としての彫刻」	西川吉武 3
寄稿「北海道デジタル彫刻美術館公開を前に」	橋本信夫 4
寄稿「修復保護から予防保全へ」	土谷あすか 5
友の会ニュース	6-7
2019年度友の会総会/吉崎氏が講演/ボランティアパネル展/友の会リーフレット完成/市文化局と意見交換	
事務局日誌、目次、美術館行事予定ほか	8

印刷 山藤三陽印刷

本郷新記念札幌彫刻美術館行事予定

本館

■企画展

わくわく★アートスクール 2019 作品展
 7月13日(土)～7月24日(水)

■企画展

家具の彫刻家 フィン・ユール展
 前期8月2日(金)～9月23日(月祝)
 後期9月26日(木)～11月7日(木)

デンマークの近代家具を代表するデザイナーの一人、フィン・ユールを紹介する。それまでデンマークで主流だったシンプルなデザインとは一線を画し、彫刻的な美しさを持つユールのデザインによる椅子や日用品、図面などの資料を展示する。

記念館

■図書・情報コーナー

普及事業など

■(通年) ハロー! ミュージアム(彫刻美術館コース)

本郷新記念札幌彫刻美術館

札幌市中央区宮の森4条12丁目 ☎011-642-5709

友の会ホームページ公開中です!ご覧ください

<http://sapporo-chokoku.jp>